



ヤングアダルト (YA) 向けパスファインダー  
お金のことについて調べる

いつも私たちの身近にあり、なくてはならないものでもある、お金。何気なく使っているけれど、あらためて、「お金って何なの?」と考えると、お金の歴史や仕組み、お金の稼ぎかたなど、多くの問いに気づきます。そんな素朴な「?」のこと、考えてみませんか。

★分類番号の横に「児」とあるのは <児童資料>、  
無表記は <一般資料> を示しています。


★各資料の詳細は、蔵書検索システム (OPAC) でご確認ください。  
(所蔵館によって、出版年や分類番号が異なる場合があります)


## はじめに

- 本で調べたことをまとめるときは、どれが自分の考えで、どれが他の人の考えかがわかるように、使った本の名前やその本を書いた人の名前を、「参考にした本」として書いておくようにしましょう。
- お金や経済に関わることは、時代の流れとともに急速に変化していきます。本を調べるときは、その本が刊行された年も必ずチェックしましょう。


### ① テーマから、たくさんの「問い」を見つけよう

まずは、お金に関する「？」のつく文章を、思いつくまま書き出してみましょう。ここではたとえば、以下のような問いを立ててみました。


( マークは、それぞれの問いに関わる「キーワード」です)

Q1 お金にはどんなものがあるの？ (P.4) →  貨幣

Q2 お金が回る仕組みってどんなもの？ (P.5) →  経済

Q3 どうして税金なんてものがあるの？ (P.6) →  税

Q4 お金の賢い使いかたって？ (P.7) →  経済

Q5 もしもお金がなかったら？ (P.8) →  貧困・福祉

コラム 「お金」に関する絵本・文学作品 (P.12)

## ② キーワードに関する本が、どこにあるか調べよう

図書館の本は、本の主題を示す**分類番号**に沿って並べられています。今回は、次のようなキーワードに関わる分類の本棚に行ってみましょう。

### ★今回のキーワードと、関係する本の分類番号★

貨幣／経済	：	330 番台
税	：	340 番台
仕事（労働）	：	360 番台
貧困・福祉／消費者問題	：	330 番台、360 番台

### 🔍 ワンポイントアドバイス

「経済」って、何だかとっつきにくい！ と思っている人におすすめなのが「**新書**」です。「新書」の中には、専門的な分野のことを、その道の第一人者がコンパクトにわかりやすく解説しているものがたくさんあります。

新書は上で説明した分類番号の棚ではなく、別の棚にまとめて置かれている場合もありますので、ぜひそちらも合わせて見に行ってみてください。



★杉並区立図書館で採用している分類やラベルのルールについて、さらに詳しく知りたいときには、図書館ホームページ（トップ>パスファインダー）の「パスファインダー 基礎編その1」のページをご覧ください。

★目的の本が見つからないときは、図書館のスタッフにお声がけください。

### ③ 蔵書検索システム（OPAC）で本を調べよう

図書館の本は、蔵書検索システム（OPAC）を使って調べられます。  
OPACは、図書館内の端末機か、図書館ホームページから利用できます。

#### <図書館内の端末機から検索するとき>

蔵書検索システム

キーワード検索

検索

くわしい検索

詳細検索 ジャンル検索

マイライブラリ

レファレンス検索

利用登録申請

パスワード登録

#### <図書館ホームページから検索するとき>

杉並区立図書館

検索キーワード入力

検索

ソフトウェアキーボードで入力する

あなたの利用状況

マイブックリスト


貸出中

予約中

カード

マイライブラリ

★OPAC の詳しい使いかたを知りたいときは、画面右上の「？」マークのところにあるヘルプページ、または、図書館ホームページ（トップ>パスファインダー）の「パスファインダー 基礎編その1」のページをご覧ください。

**Q1** お金にはどんなものがあるの？ →  貨幣

まずは、お金を単純に「モノ」として見てみるところから始めましょう。コインやお札には、その国の文化や歴史が映し出されています。

<p>『ビジュアル 日本のお金の歴史 (全3巻)』 井上正夫 (1巻)、岩橋勝 (2巻)、草野正裕 (3巻) / 著、 ゆまに書房 / 発行、2015~16年 (児330 ヨ)</p> <p>飛鳥時代の和同開珎から現代の貨幣まで、日本で使われてきたお金を豊富なカラー図版とともに紹介。その変遷の背景にある経済の仕組みも理解できる。</p>	
<p>『国際理解に役立つ 世界のお金図鑑 (全3巻)』 佐藤英人 / 協力、平田美咲 / 編集、汐文社 / 発行、 2013年 (児330 ヒ)</p> <p>100以上の国の紙幣を並べ、そのデザインの由来を説明した本。お札に肖像が描かれている著名人の解説などを通して、国や地域ごとの事情がわかる。</p>	
<p>『お金で世界が見えてくる!』 池上彰 / 著、筑摩書房 / 発行、2014年 (Aちくま新書)</p> <p>「お金を見れば、その国の様子がわかる」をテーマに、各国の紙幣のデザインなどを読み解く。北朝鮮のお金に原子力マークがある理由、お札の傷み具合で経済状況がわかる理由など、驚きの情報が満載。</p>	

## Q2 お金が回る仕組みってどんなもの？ → ♀ 経済

次に、お金が回る仕組みや、ものの値段が決まる仕組みなど、「経済の基礎」を学べる本をご紹介します。

### 『15歳から身につける経済リテラシー』

岡野進／著、朝日学生新聞社／発行、2017年（330才）

経済における企業・家計・政府の役割、基本的な用語の解説、2008年以降の世界経済危機の背景から、年金・介護・待機児童などの近年の社会問題まで、主なトピックスを広く扱う。図も多くわかりやすい。

### 『中学生の質問箱 お金ってなんだろう？ あなたと考えたいこれからの経済』

長岡慎介／著、平凡社／発行、2017年（330ナ）

経済や金融の基礎をふまえた上で、資本主義の仕組みと、今なぜそれが行きづまっているのかを解説。未来の経済の仕組みのヒントとして「イスラーム経済」の知恵を紹介する。目からウロコの経済解説書。

### 『いくらかな？ 社会がみえるねだんのはなし（全6巻・刊行中）』

藤田千枝／編集、大月書店／発行、2017年～（児330フ）

キリンは一頭4千万円、ではライオンは？ などなど、ふだんあまり考えないモノの値段から、その裏にある社会と経済のカラクリを解説する。「自然と生きもののねだん」「戦争と安全のねだん」など。

### 『信じられない「原価」 買い物で世界を変えるための本（全3巻）』



こどもくらぶ／編集、稲葉茂勝／訳・著、講談社／発行、2015年

（児360イ）

私たちが手にするすべての商品には、さまざまな原材料費や人件費＝「原価」がかかっている。でもその原価は、本当に適切なんだろうか？ 経済の発展を支える、見えにくい問題を取り上げるシリーズ。

### Q3 どうして税金なんてものがあるの？ → ♀ 税

大人も子どもも、さまざまな形で国や地方自治体に税金を払っている。税金は、誰のために、どこでどうやって使われているのだろう？

<p>『税金の大事典』 神野直彦／監修、くもん出版／発行、2017年(児340ク)</p>	
<p>歴史や種類、使い道など、税金に関することを広く解説した事典。「復興予算は正しく使われているの?」「関税を取り巻く世界の動き」(TPP問題)など、近年のトピックスも取り上げられている。</p>	

### 杉並区の税金はどう使われているの？

杉並区では、区税のあらましをまとめた『わたしたちの区税』(杉並区区民生活部課税課／編集・発行、年刊、S11.34カ)という資料を、ホームページ(<http://www.city.suginami.tokyo.jp/index.html>)で公表・配布しています。たとえば、区の税収を10,000円と考えたとき、「福祉の充実・健康を守る」ためには5,933円、「学校教育の充実、生涯学習」のためには1,148円、「環境保全・清掃・リサイクル」のためには507円が使われている(平成29年度版、P.10~11より)、といったことがわかります。

## Q4 お金の賢い使いかたって？ → ♀ 経済

できるだけ賢く使いたいお金。自分のため、他人のために、どんな使いかたをすればいいのか、アドバイスしてくれる本もたくさんあります。

### 『生きるための「お金」のはなし』

高取しづか／著、サンマーク出版／発行、2010年（児330タ）

賢くお金を使う力＝「やりくりの力」、だけじゃない。一番肝心なのは、「自分や他人をお金でどう幸せにするか考える力」を身につけること。本当に「お金を大切に使う」とはどういうことか、考えさせる一冊。

### 『14歳の世渡り術 学校では教えてくれないお金の話』


金子哲雄／著、河出書房新社／発行、2011年（337カ）

流通ジャーナリストの著者が、その経験を元に、お金の活かしかたを解説。スナック菓子はどこで買うとトクか、ドリンクバーは何杯飲めばモトが取れるか……そんな身近な例から、経済のカラクリも見えてくる。


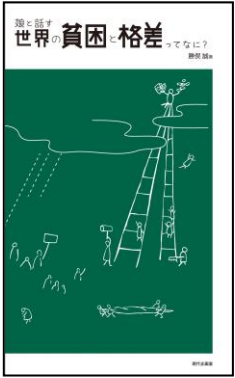


## 「寄付」が世の中を変えていく？

今注目されている「クラウドファンディング」は、インターネットなどを通じてお金を寄付することで、誰かの願いやアイデアの実現を助ける取り組みです。日本では2014年以降、（寄付先によっては）寄付金の40%が税額から控除されるという、画期的な税制も導入されました。『「社会を変える」お金の使い方』（駒崎弘樹／著、英治出版／発行、2010年、369.1コ）を読むと、投票・投資としての寄付の大きな力に気づかされ、熱い気持ちが出てきます。



**Q5** もしもお金がなかったら？ →  貧困・福祉

最後に、「もしもお金がなかったら（貧困）」と、「そんなとき助け合うための仕組み（福祉）」について考えるための本をご紹介します。

<p>『シリーズ・貧困を考える（全3巻）』 池上彰／監修、稲葉茂勝／著、ミネルヴァ書房／発行、 2017年（児360イ）</p>	
<p>国や地域、また時代によっても異なる「貧困」の姿。最近では、世代間の感覚にも隔たりがある。そんな様々な角度から、「貧困」の実像に迫るシリーズ。「世界の貧困・日本の貧困」「昔の貧困・今の貧困」「子どもの貧困・大人の貧困」の全3巻。</p>	
<p>『娘と話す 世界の貧困と格差ってなに?』 勝俣誠／著、現代企画室／発行、2016年（333カ）</p>	
<p>『どんとこい、貧困!』 湯浅誠／著、イースト・プレス／発行、2011年（児300ユ）</p> <p>2008年、日比谷公園に「年越派遣村」を開設したことで有名な貧困問題の第一人者が、若者に向けて書いた本。自己責任論や社会にはびこる諦めなど、今の「生きづらさ」の正体を問い直す。</p>	

### 『幸せのための経済学 効率と衡平の考え方』

蓼沼宏一／著、岩波書店／発行、2011年（A 岩波ジュニア新書）

「経済学」は、本来お金もうけの学問ではなく、「人々の福祉を高めること」を目指す学問である。そんな原点に戻り、皆がよりよく生きられる社会のありかたを、理詰めで考えていく一冊。

### 『世界がもし100人の村だったら お金篇』

たった1人の大金持ちと50人の貧しい村人たち』

池田香代子／著、C.ダグラス・ラミス／対訳、マガジンハウス／発行、2017年（330イ）

「100人の村では1人の大金持ちの富と99人の富がだいたい同じ」——信じられないようだけれど紛れもないこの世界の事実を、100人の村にたとえることで明らかにするシリーズの「お金篇」。自分は100人のうちのどの立場で、どう行動すべきかを示唆してくれる。

### 『世界でもっとも貧しい大統領 ホセ・ムヒカの言葉』

ホセ・ムヒカ／述、佐藤美由紀／著、双葉社／発行、2015年（519△）

2012年6月にブラジルで開催された「持続可能な開発会議」（リオ会議）でのスピーチで、世界に衝撃を与えたウクライナの大統領。人の幸福のありかたを根本から問う、その思想と半生をつづった書。

## お金のトラブルに巻き込まれたら？

近年「携帯ゲームで課金をしすぎて、高額請求が来た」など、中高生でもお金のトラブルに巻き込まれることが増えました。『まんがと図解でわかる裁判の本 4 お金のことで困ったら』（山田勝彦／監修、岩崎書店／発行、2014年、見320マ）には、困ったときはもちろん、いざ困る前に、ぜひ知っておきたい情報が満載です。



## ④ インターネットで調べてみよう

世の中のお金に関する仕組みは、激しく移り変わっています。インターネットを上手に利用して、最新の情報もチェックしてみましょう。

企業・起業について	<p><b>Yahoo! ファイナンス 企業情報</b> (<a href="http://profile.yahoo.co.jp">http://profile.yahoo.co.jp</a>)</p>	<p>ヤフーの企業情報データベース。身近な人が勤めている企業や、CM で見たことのある企業を調べてみると、いろいろな発見があるかも。</p>
	<p><b>J-Net21 中小企業ビジネス支援 サイト</b> (<a href="http://j-net21.smrj.go.jp/index.html">http://j-net21.smrj.go.jp/index.html</a>)</p>	<p>たとえば「将来カフェを開きたい」と思ったときに必要な資格や許可、経営の基礎などを、具体的にガイドしてくれる。「起業をする&gt;業種別開業ガイド」のページを見てみよう。</p>
税金について	<p><b>国税庁 税の学習コーナー</b> (<a href="http://www.nta.go.jp/shiraberu/ippanjoho/gakushu/index.htm">http://www.nta.go.jp/shiraberu/ippanjoho/gakushu/index.htm</a>)</p>	<p>国税庁ホームページ内にある、税金について学べるコーナー。小学生向けの入門編、中学生向けの発展編、高校生向けの応用編などがある。</p>
	<p><b>財務省キッズコーナー ファイナンスらんど</b> (<a href="http://www.mof.go.jp/kids/index.php">http://www.mof.go.jp/kids/index.php</a>)</p>	<p>財務省ホームページ内にある、子ども向けのコーナー。Flash アニメやルーレットのゲームなどを通じて、税金について理解できる。</p>

## コラム 「お金」に関する絵本・文学作品

過去や現在の経済の仕組みは経済学の本から学べますが、私たちが将来どんな世の中を作っていけばいいかは、経済学からだけではわかりません。ときには、こんな絵本や文学でイメージを広げてはいかがでしょうか？

### ● 『買物絵本』

(五味太郎／著、ブロンズ新社／発行、2010年、EY)

お金で買えるものは、おいしさ、たのしさ、うれしさ、ついでに虫歯……？ などなど、「お金で買えること」について、哲学的に考察する絵本。



### ● 『お金物語 中学生までに読んでおきたい日本文学 4』

(松田哲夫／編集、あすなろ書房／発行、2010年、児918ア)

「お金」の問題を扱っていたり、「お金」について面白い見かたを示してくれたりする文学作品のアンソロジー。星新一、太宰治、森鷗外などの作品を収録。



### ● ミハエル・エンデの諸作品

(『エンデ全集 全19巻』：岩波書店／発行、1996～98年、948工)

『モモ』や『はてしない物語』で有名なエンデの作品には、現代の経済システムへの数々の問いが秘められています※。そのような視点からエンデの作品を読み直してみると、また違った面白さが見えてくるのではないのでしょうか。

※『エンデの遺言 根源からお金を問うこと』(河邑厚徳、グループ現代／著、日本放送出版協会／発行、2000年、337工) 参照



杉並区立中央図書館

2014年9月1日発行

2018年3月1日改訂

(代表) 03-3391-5754

※本文および掲載画像の無断複製を禁じます。